

【機密性 1】

令和 8 年 2 月 19 日（木）

総務企画部

オープンシティ・プロモーション室

定例記者会見 市長コメント（概要）

①令和 8 年 3 月釜石市議会定例会付議事件について 資料 1

2 月 20 日に招集する定例会に付議する事件は、50 件。

内訳は、専決処分 1 件、条例 15 件、予算 10 件、その他 20 件、人事案件 4 件。

専決処分は、令和 7 年度補正予算の専決処分の 1 件である。資料 1-4、「令和 7 年度予算の概要と主要事業」の 17 ページ、令和 7 年度補正予算の専決処分は、1 月 19 日付で、一般会計を 3,400 万円の増額、補正後の予算額を 262 億 4,730 万円とし、令和 8 年 2 月 8 日執行の衆議院議員総選挙及び最高裁判所裁判官国民審査に要する経費を専決処分したものの。

条例は、資料 1-1、子どもたちが夢や希望をもって、豊かな心と生きる力を育むとともに、遊び場を核とした子育て世帯の交流の促進及び地域の賑わいの創出に資するため、室内の遊び場を設置しようとする「釜石市室内の遊び場条例」や、組織機構の見直しに伴う「釜石市部等設置条例等の一部を改正する条例」などを提案する。

資料 1-4、5 ページ、一般会計の補正額は、8 億 8,570 万円の増額で、補正後の予算額を 271 億 3,300 万円としたもの。

今議会における補正予算では、国の補正予算に対応した事業の予算計上を行うとともに、各事業の決算見込額を踏まえた予算の調整などを行っている。

今回提案する予算のうち、主要な事業を資料に沿って説明する。

資料 7 ページ、番号 1 の「いわてニューファーマー支援事業」、予算額 300 万円は、独立就農時の年齢が 49 歳以下で、経営開始資金の交付を受けて経営開始時の早期の経営確立を目指す新規就農者に対して、岩手県の補助制度を活用し、就農後の経営発展のために必要な農業用機械の導入費用を経営発展支援事業費補助金として支援するもの。

番号 2 及び 3 の「県営漁港整備負担金」、予算額 3,900 万 1 千円と、「急傾斜地崩壊対策事業負担金」、予算額 1,150 万円は、国の令和 7 年度補正予算に伴い、岩手県が実施する県営漁港整備事業及び急傾斜地崩壊対策事業に対する事業費の一部負担分を追加計上し、漁港整備の基盤・維持や急傾斜地で人家等に被害を及ぼす恐れがある箇所を整備促進を図ろうとす

るもの。

その他、補正予算の概要は、資料の 8 ページ以降をご覧ください。

次に、「令和 8 年度当初予算について」、今議会に提案する令和 8 年度予算は、一般会計のほか、国民健康保険事業会計、後期高齢者医療事業会計、介護保険事業会計、魚市場事業会計の各特別会計及び水道事業会計、公共下水道事業会計、漁業集落排水事業会計の各企業会計の合計 8 件となっている。

資料 1-3、12 ページ、一般会計予算は、前年度比 31 億 6,100 万円・12.8%減で、予算額を 215 億 5,900 万円としており、令和 8 年度に「第六次釜石市総合計画」の後期基本計画がスタートすることから、「地域医療の充実」、「子育て支援」、「教育の充実」、「産業の振興」、「防災対策の充実」を 5 つの柱として、予算を編成。

令和 8 年度予算について、5 つの柱に沿って資料 13 ページに掲載した主な事業を説明する。

「地域医療の充実」について、資料 40 ページ、番号 64 の「地域医療DX推進事業」、予算額 258 万 6 千円は、医師不足に伴う診療科の偏在や地域公共交通網の縮小などの課題を踏まえ、安心できる地域医療を維持・構築するため、「産婦人科・小児科オンライン相談」を実施するとともに、自宅等で診療を受けることができる「オンライン診療」の検討など、医療関係者及び住民の利便性向上に向け、医療DXの普及、活用を図るもの。

同じく、番号 65 の「救急安心センター事業（^{シャープ} # 7119）」、予算額 35 万 1 千円は、地域医療の充実に向けて、県下一斉に導入された救急安心センター（^{シャープ} # 7119）を活用し、軽症者の新たな窓口を設けることで、圏域内の救急医療体制を整えるもの。

資料 41 ページ、番号 66 の「医師志望学生等応援事業」、予算額 112 万 7 千円は、将来的に釜石医療圏で就業する医師の確保のため、医学部を目指す高校生の学力向上への支援や医学生の経済的負担の軽減により、医師を志す学生を応援するもの。

次に、「子育て支援」について、資料 37 ページ、番号 55 の「乳児等のための支援給付事業」、予算額 696 万円は、教育・保育施設に入所していない 0 歳 6 か月から満 3 歳未満の子どもを対象に、月一定時間までの利用可能枠の中で、就労要件を問わず保育所等を利用できる通園制度（こども誰でも通園制度）を実施するもの。

資料 41 ページ、番号 68 の「妊産婦支援事業」、予算額 3,187 万円は、釜石医療圏での妊産婦健診や出産ができない状況にある中、不安を抱える妊産婦への支援策として、「妊産婦

健康診査等アクセス支援助成金」や市単独の「妊婦応援給付金」を継続し、経済的な支援を行うほか、妊産婦や子育て中の方の不安や悩みに対し、保健師や助産師などが助言・指導をするとともに、心身のケアを行うもの。

資料 66 ページ、番号 174 の「学校給食費無償化事業」、予算額 1 億 791 万 2 千円は、子育て世帯の経済的負担を軽減し、より一層子育て支援を推進するため、第 2 子以降の児童生徒に対し行ってきた給食費の無償化について、令和 8 年度から完全無償化に拡充し実施するもの。なお、小学校分は国の方針で全国一律で給食費の無償化が行われるが、中学校分は市独自の施策として無償化事業を行うもの。

次に「教育の充実」について、資料 58 ページ、番号 137 の「教育相談員等設置事業」、予算額 2,344 万 1 千円は、現在配置している教育アドバイザー及び教育相談員などのほか、家から出ることができず学校や教育支援センター(若葉教室)に通うことができない児童生徒に対し、家庭訪問などのアウトリーチ支援を実施するアウトリーチ支援員を新たに配置するもの。

資料 64 ページ、番号 163 の「大島高任生誕 200 周年記念事業」、予算額 340 万 9 千円は、近代製鉄の父である大島高任の生誕 200 年を記念し、改めて歴史的偉業を広く周知するとともに、教材を作成し、教育、観光での活用を図るもの。

資料 66 ページ、番号 171 の「スポーツ少年団等指導者活動支援事業補助金」、予算額 80 万円は、青少年のスポーツ活動の推進や青少年健全育成の活性化を図ることを前提とした、釜石市スポーツ少年団本部への加盟又は各競技上部協会に加盟登録している各単位団の指導者に対し、必要となる各種資格取得における受講料等経費の一部を補助するもの。

次に「産業の振興」について、資料 29 ページ、番号 27 の「脱炭素先行地域づくり事業」、予算額 5 億 8,297 万円は、2050 年ゼロカーボンシティの実現に向けて、民生部門の電力消費に伴う二酸化炭素排出実質ゼロの推進等、地域脱炭素に資する取組を実施するもの。

資料 45 ページ、番号 79 の「地域人材活性化事業」、予算額 558 万 7 千円は、DX人材の育成を目的としたスキルアップ講座の開催や求職者等を対象とした相談業務等の実施により、企業が求めるデジタル分野で即戦力として活躍できる人材の育成や市内企業在職者の専門スキル、ITリテラシーの向上を図るとともに、各企業のDX化を推進し、業務効率化や生産性の向上と求職者の早期就労支援や潜在労働力の発掘、地域事業者の人材確保の支援を行うもの。

資料 56 ページ、番号 125 の「鈴子地区にぎわい再生検討事業」、予算額 1,500 万円は、区画整理事業の完了から約 20 年が経過し街並みに変化している鈴子地区において、官民連携によるにぎわい再生のための体制構築や再整備について、検討を行うもの。

次に「防災対策の充実」について、資料 30 ページ、番号 31 の「防災行政無線整備事業」、予算額 1,461 万 9 千円は、災害時の情報伝達手段の要であるデジタル防災行政無線の難聴地区の解消を図るため、防災行政無線戸別受信機の無償貸与や防災アプリを構築するもの。

同じく、番号 33 の「津波避難場所整備事業」、予算額 132 万 9 千円は、市民や来訪者が、円滑かつ安全に津波から避難できるよう、新たに指定した緊急避難場所へ津波避難誘導標識を設置するほか、孤立が想定される市内 27 か所の防災備蓄倉庫にキーボックスを新たに設置し、災害対応の迅速性と安全性向上を図るもの。

資料 31 ページ、番号 36 の「新庁舎建設事業」、予算額 10 億 6,795 万 7 千円は、令和 8 年度に竣工する新市庁舎の建設に要する経費を計上しております。新市庁舎の竣工により、庁舎の老朽化、狭隘化、分散化が解消されるとともに、住民サービスの向上、円滑な市政運営、防災拠点としての機能充足などが図られるもの。

以上が、「地域医療の充実」、「子育て支援」、「教育の充実」、「産業の振興」、「防災対策の充実」の 5 つの柱の主な事業である。

その他の主な事業につきましては、資料 22 ページ以降に、新規事業は、資料 69 ページに掲載しているので、参照願う。

予算の規模が、前年度より減少した要因としては、令和 8 年度に竣工となる「新庁舎建設事業」を前年度比約 33 億 6,000 万円減の約 10 億 7,000 万円としたことが大きく影響しており、そのため、投資的経費は前年度比約 40 億 2,500 万円・約 64%減の、22 億 2,400 万円となった。

財政健全化の取組として、より効率的に予算執行することを基本に事務費等を見直し、令和 7 年度予算から財政調整基金繰入金の縮減を図った結果、令和 6 年度予算で約 12 億 3,000 万円だった財政調整基金繰入金は、令和 7 年度予算では約 3 億 9,000 万円、令和 8 年度予算では約 3 億 3,000 万円と堅調に推移している。

令和 8 年度予算編成時点での年度末市債残高見込みは、約 218 億 3,800 万円となっており、令和 7 年 12 月末人口で算出した市民一人あたりの市債残高は、約 77 万 7 千円となった。市債残高のうち「新庁舎建設事業」に係る市債の借入れは約 56 億 9,000 万円を占めて

いるが、交付税措置が手厚い緊急防災・減災事業債を活用している。令和8年度の市債発行額は約13億1,000万円、元金償還金は約19億円と発行額が元金償還金以内となったので、引き続き、公債費の適正管理に努める。

その他の特別会計及び企業会計は、資料を参照願う。

以上が、予算関連議案の概要である。

その他の議案は、資料1-1、国土交通省東北地方整備局南三陸沿岸国道事務所の庁舎用地に供するため市有地を処分しようとする「土地の処分に関する議決」や、市民ホール、道の駅釜石仙人峠を始め、公の施設の「指定管理者の指定に関する議決」18件などを提案する。

人事案件は、「教育委員会委員の任命に関する同意」1件、「固定資産評価審査委員会委員の選任に関する同意」1件、「人権擁護委員候補者の推薦」2件を提案する。

以上が項目の一つ目「令和8年3月釜石市議会定例会付議事件について」である。

②令和8年4月1日付け組織機構の見直しについて 資料2

行財政改革の一環として、行政サービスの更なる向上と財政の健全化を推し進めるため、今年度においても、庁内で組織される行政機構整備調査委員会の開催を重ね、現状に即した組織再編を検討してきた。

東日本大震災以降、拡張及び細分化した組織の現状を見直し、減少する人口や職員数を考慮して、よりコンパクトで機能的な体制に組織再編するとともに、新市庁舎移転後の円滑な行政運営を実現しようとするもの。

組織機構の具体的な変更点について説明する。

「保健福祉部」は、現在、地域包括ケア推進課、地域福祉課、こども家庭課、健康推進課があるが、地域包括ケア推進課、総合福祉課、こども家庭センター、健康保険課とする。

「地域包括ケア推進課」は、地域包括ケア及び重層的支援体制整備の推進に向けて、施策の立案、連携体制の構築を図るため、地域福祉分野の業務を推進係に移管して「福祉政策係」を設置するとともに、保健師及び庁内の少数専門職を集約し、各地区及び部内・庁内の専門的かつ組織横断的な業務に効率的に対応するため、「地域支援係」を設置するもの。

「総合福祉課」は、重層的支援体制を具現化するもので、市民サービスの向上及び組織体制の効率化と、属性に囚われない一元的な相談・支援体制の実現を図るために設置するもの。

総合福祉課には、高齢者及び障がい者の保健福祉関係事務、介護保険関係事務、介護予防、

自殺予防対策及びひきこもりの支援を行うために「総合福祉係」を設置するとともに、「地域包括支援センター」を総合福祉課に所管替えし、生活保護・生活困窮者を含めた全世代対応型の相談対応、包括的個別支援を行う。

「こども家庭センター」は、こども家庭課を廃止してこども家庭センターに集約するもので、市民にとってわかりやすい組織体制とするために行うもの。

「健康保険課」は、健康増進に関する市民サービスの向上と組織体制の効率化を図るため、保健予防係を「健康推進係」とし、市民生活部市民課の国保年金係と医療給付係を統合して「保険給付係」として設置し、加入する保険の属性に囚われない、一元的な事業実施体制を構築するもの。

建設部は、都市計画課内に「空き家対策室」を新設し、現在、オープンシティ・プロモーション室、生活環境課、都市計画課にまたがっている空き家に関する業務の一元化を図る。

この他、各課における少人数の係を統合し、事務の効率化と組織のスリム化を図るもの。

令和8年度の行政機構の見直しについては以上となるが、令和9年度以降も、今年度末に策定する第5次釜石市行政改革大綱に基づき、新市庁舎における各部署の連携状況等を確認しながら、持続可能な行政サービスのあり方や組織戦略に応じた体制の見直しを図る。

③釜石市東日本大震災犠牲者追悼式の開催について 資料3

東日本大震災から15年を迎える3月11日、午後2時45分から釜石祈りのパーク前広場において、市主催による追悼式を執り行う。

式典では、午後2時46分の黙とう、追悼のことば、献花を予定しているほか、今年度、新たに、若い世代によるスピーチとして、「未来へのメッセージ」を披露いただく。発表者は、夢団（ゆめだん）～未来へつなげる ONE TEAM～に所属する釜石高校3年生の山陰皇騎（やまかげ おうき）さん。なお、山陰さんは震災でお父様を亡くされた震災遺児でもあり、山陰さんへの取材機会を別途設けるので、詳細は配布資料をご確認願う。

本式典の開催により、震災で犠牲になられた方々を追悼し、鎮魂の祈りを捧げるとともに、震災の教訓を後世に伝えていくことを改めて誓う。